

現状、課題、目標整理表

1 歩いて暮らせる・歩いて楽しいまちづくり

| 現状 | 課題 | 基本目標 |
|--|--|---|
| | コンパクトな都市構造の維持 | 歩いて暮らせる・歩いて楽しいまちづくり (現状の都市構造の維持・強化) |
| <p>現行計画では、人口減少と少子高齢化の進行を見据え、市街地の拡大路線を転換し、鉄道駅を中心にまとまった、コンパクトな都市構造の利点を維持し、活かすとともに、快適に生活できる居住環境を維持・向上させていくことで、市民の定住や若い世代の転入が可能となるまちづくりを進めてきました。</p> | <p>人口減少と少子高齢化への対応や、市民のニーズに応えることのできるまちの実現に向け、引き続き都市機能の集約化などによる利便性の高い拠点の形成、道路・公共交通のネットワークの充実、歩いて楽しめる歩行環境の整備など、「コンパクトな都市構造の維持」に取り組むことが必要です。</p> | <p>市街地の縁辺部での新たな開発を抑制するとともに、コンパクトでまとまりのある市街地の既存ストックの有効活用や、都市的土地利用と自然的土地利用のバランスに配慮した土地利用の誘導に取り組みます。</p> |
| <p>しかし、堅調に増加を続けてきた本市の人口も、今後は減少に転じ、少子高齢化も進行していくことが予測されています。</p> | | <p>また、商業・業務機能や医療・福祉機能などの暮らしを支える多様な機能の集約と、交通ネットワークの充実によって、生活利便性が実感できる都市を構築していきます。</p> |
| <p>市民アンケート調査では、将来のまちづくりとして「公共交通が利用しやすいまち」や「緑豊かなまち」「福祉が充実したまち」「保健・医療や健康づくりへの取り組みが充実した健康のまち」などへのニーズが高くなっています。</p> | | <p>さらに、市民の健康を維持・増進し、歩いて暮らすことの楽しさが感じられる魅力的なまちの形成に向け、歩行環境の充実に取り組みます。</p> |

2 安全・安心なまちづくり

| 現状 | 課題 | 基本目標 |
|--|--|--|
| | 災害等に対する防備と被害の低減 | 安全・安心なまちづくり (災害等への備えとライフラインの維持管理) |
| <p>地震災害や各地で頻発する水害、土砂災害などを踏まえ、地域防災計画の改定をはじめ、建築物やインフラ施設の耐震化、総合的な治水対策などに取り組んできましたが、災害リスクのある区域が広く分布し、令和元年に発生した台風15号・19号及び10月25日の大雨では、市内でも大きな被害が発生しました。</p> | <p>自然災害等から市民の生命・財産を守り、被害を最小限に抑えることは、都市づくりに欠くことのできない取り組みであると同時に、市民・地域・事業者・行政が協働していくことが求められることから、引き続き、関連計画とも連携しつつ、「災害等に対する防備と被害の低減」に取り組むことが必要です。</p> | <p>河川の改修などによる治水対策、災害リスクのある区域の土地利用の抑制などを通じ、市民の生命や財産への被害を最小限に抑えられる都市を構築するとともに、自主防災組織や市民が行う災害への備えに対する支援などにより、地域における自助・共助の力を高めていきます。</p> |
| <p>こうしたこともあり、市民アンケート調査では、「自然災害等に対する防災対策」への満足度が低く、今後の取り組みの重要度が最も高い結果となりました。</p> | | <p>また、安全・快適な市民生活を支える基盤施設である上下水道などの供給処理施設は、適切な維持管理に取り組み、長寿命化を図ります。</p> |
| <p>新型コロナウイルス感染症による感染拡大は、市民の日常生活に大きな影響を与えました。</p> | | <p>さらに、新型コロナウイルスなどの感染症の拡大の抑制につながる環境の整備について検討を進めます。</p> |

3 地域の個性を活かしたまちづくり

| 現状 | 課題 | 基本目標 |
|--|---|--|
| | 地域の個性を活かした都市環境の形成 | 地域の個性を活かしたまちづくり (居住環境の維持・向上) |
| <p>現行計画では、人口減少が予測される中、都市の活力を維持するため、駅を中心とした商業地、既成市街地、計画的住宅団地、農村集落など、特色の異なるエリアの個性を活かしながら快適に生活できる居住環境の維持・向上に取り組んできました。市民アンケート調査では、30代以下の世代で、将来のまちづくりとして「子育て環境が充実したまち」へのニーズが高まっています。</p> | <p>若者・子育て世代の定住や転入を促進し、全ての世代が快適に生活できる居住環境を形成していくため、適切な土地利用、暮らしや様々な都市活動を支える道路や公園などの都市基盤施設の整備、暮らしを豊かにする自然の保全や良好な景観形成など、都市を支える様々な分野において総合的に「地域の個性を活かした都市環境の形成」に取り組むことが必要です。</p> | <p>市街化区域における都市的土地利用の促進と市街化調整区域における自然的土地利用の保全を基本に、テレワークなどの自宅での仕事や活動の進展・定着なども見据え、都心に近く自然にも恵まれた地域の個性を活かして、子育てがしやすく、また、全ての世代が快適に生活できるまちづくりに取り組みます。</p> |
| | | <p>市街化区域においては、身近な自然の保全・創出に配慮し、多様で良好な居住環境の提供に向け、道路や公園などの都市基盤施設の整備、空き家・空き地の有効活用などに取り組みます。</p> |
| | | <p>市街化調整区域においては、豊かな自然環境の保全や、これらと調和した暮らしを支える道路などの整備、医療施設などにアクセスしやすい環境の確保などにより、自然と調和した集落環境と地域コミュニティの維持・向上に取り組みます。</p> |

4 佐倉らしさを守り育てるまちづくり

| 現状 | 課題 | 基本目標 |
|---|---|--|
| | 歴史文化資産と自然の保全と活用 | 佐倉らしさを守り育てるまちづくり (歴史・自然・文化の保全と活用) |
| 江戸時代や明治時代はもとより、太古から人々の生活が営まれてきた歴史の蓄積、印旛沼や谷津に代表される豊かな自然、人々の生活の中で構築されてきた文化などは、「佐倉らしさ」を示す市の重要な資源といえます。 | 歴史文化資産や自然は、ふるさと意識や地域への愛着を醸成するだけでなく、交流人口の拡大など、観光振興に寄与する重要な資源となります。 | 本市には、江戸時代や明治時代はもとより、太古から人々の生活が営まれてきた歴史の蓄積、印旛沼や谷津に代表される豊かな自然、人々の生活の中で構築されてきた文化などの「佐倉らしさ」が数多くあり、これらを守り育てていくことで、暮らしの場、訪れる場としての魅力を高めていきます。 |
| | また、農地や緑地といった自然は「都市に必要なもの」と捉え直され、環境負荷の低減や防災性の向上など多面的な機能の発揮も期待されています。 | また、これら歴史・自然・文化を市民と守り・育てるとともに、市民の郷土への愛着を醸成する場や観光資源として有効に活用し、広く市の内外にPRします。 |
| こうした歴史・自然・文化は、市民アンケート調査においても満足度が高く、特に自然は、目指すべきまちづくりとして「自然と暮らしが共存する緑豊かなまち」とする回答が多くなっています。 | このため、引き続き「歴史文化資産と自然の保全と活用」に取り組むことが必要です。 | |

5 佐倉の資産を活かしたまちづくり

| 現状 | 課題 | 基本目標 |
|---|---|---|
| | 安定した雇用と活力ある産業の維持・確保 | 佐倉の資産を活かしたまちづくり (産業・観光の振興) |
| <p>高速道路等の整備の進展、成田空港の機能強化などに伴う交通利便性の向上など、企業が進出しやすい環境が整いつつあります。</p> | <p>今後、本格的な人口減少、少子高齢化社会の到来が予測される中であって、市民の暮らしが豊かな都市として持続的に発展していくため、「安定した雇用と活力ある産業の維持・確保」に取り組むことが必要です。</p> | <p>東京都心や成田国際空港に近い立地条件や、鉄道・道路のネットワークによる交通利便性などの特性を「資産」と捉え、これらを活かした新たな産業の受け皿の確保と企業誘致による産業振興を図ります。</p> |
| <p>現行計画策定以降の商品販売額や製造品出荷額、観光入込客数などの指標は増加傾向にあったものの、新型コロナウイルス感染症は、観光をはじめとする産業に大きな影響を与えました。</p> | | <p>また、空き店舗の有効活用や新規起業の支援などによる商業振興、農産物加工施設などの安定した農業経営の確立に必要な施設の整備の支援などによる農業振興に取り組めます。</p> |
| | | <p>観光においては、「交流人口」の拡大に加え、生まれ育った地域や、学び働いたことのある地域など、生涯を通じて様々な形で関わりを持つ「関係人口」の拡大にも取り組めます。</p> |